

福井のセルフメディケーションを考える

一般社団法人 福井県薬剤会 会長

たかばたけ えいいち
高畠 栄一

福井のセルフメディケーションを考える

(一社) 福井県薬剤師会 セルフメディケーション委員会
啓発事業実施者氏名 山内 辰朗

(〒 910-0026 福井県福井市光陽 4-11-22 TEL 0776-26-1453)

要旨

1、啓発事業実施目的

福井県内において一般用医薬品を販売するスペシャリストの連携、セルフメディケーションについての考え方を共通化させることに加えて、県民を対象とした健康増進、QOL向上に寄与するための私たちの役割に関する可能性や、県民により深く広く認識してもらうためにはどうするべきかを考える。

2、啓発事業実施方法および内容

2-1 実施方法

「福井のセルフメディケーションを考える」と題して薬剤師、登録販売者、配置販売業者が連携のもと、帝京平成大学薬学部教授濃沼政美先生を招いて研修会を開催する。ただ講演を聞くのではなく、各自立場から代表者を招きテーブルディスカッションを実施して、お互いの現状を知ったのち、参加者すべてでスモールグループディスカッションを実施する。

2-2 内容

明日のセルフメディケーションに向けての一步としてセルフメディケーションの将来について講演会を開催する。健康に過ごすために、すぐに医療機関に受診するのではなく、自分で体の状況を考え、生活習慣、食生活も含め行動できる県民を増やすため、薬剤師や登録販売者等には、一翼を担うスペシャリストとしての自覚を持ってもらう。

講演後は、参加者7名程度1グループとし、スモールグループディスカッションを行う。薬剤師9名をファシリテーターとして議論をまとめ、代表者が発表を行う。また、本講演会等を通じて、登録販売者や配置販売者、薬剤師との交流をはかれる内容とする。

- 1 講演 (13:00 ~ 14:00)
演題 『セルフメディケーションに必要なセルフメディケーション
データマネジメントスキルについて』
講師 帝京平成大学 薬学部 教授 濃沼 政美 先生

- 2 パネルディスカッション (14:05 ~ 15:10)
コーディネーター 清水孝次 (セルフメディケーション委員長)
パネリスト 濃沼 政美 先生 (帝京平成大学薬学部教授)
佐々木 富代 先生 (福井県医薬食品・衛生課)
辰巳 卓史 先生 (福井県医薬品登録販売者協会登録販売者)
千知岩 祐次 (セルフメディケーション委員会)

- 3 スモールグループディスカッション (15:20 ~ 17:00)
テーマ1 こうありたい・こう育てたい福井のセルフメディケーション
テーマ2 県民のための、ちょっと素敵なお福井のセルフメディケーション

総評 福井県薬剤師会 会長 高島 栄一

3、啓発事業成果

3-1 参加者数

62名 (薬剤師、登録販売者、配置販売者)

3-2 基調講演

セルフメディケーションは時代の要請と位置付けられているにも拘らず、その重要性や方向性はまだまだ国民に概念化されて広く行き渡らないというのが状況である。実際、セルフメディケーションと Medikation の使い分けは、案外難しいものである。私たち関係者は、県民のために率先してセルフメディケーションスキルを高めていかなければならないことをいくつかの具体的な事例を上げ、わかりやすく解説された。様々な情報をしっかりと読み込むことで流行に惑わされない、データマネジメントスキルが大切だと認識できた。

パネルディスカッション

行政、薬剤師、登録販売者（配置販売者を兼ねる）の三者が、それぞれの立場におけるセルフメディケーションの現状を語り合うことで、関係者間の立場における微妙な受け止め方の違いが前段で明らかとなる中で、福井の目指すべきセルフメディケーションの方向性と概念化を議論した。行政からセルフメディケーションの重要性について県民にまだまだ伝えられていない反省点や薬物乱用防止の努力をしてもらいたいこと、薬剤師として現状よりもセルフメディケーションを理解して県民に伝える努力や登録販売者から一般用医薬品について学ぶこともあるのではないかとということ、配置業登録販売者を兼ねるものとして、セルフメディケーションの推進が死活問題であり、セルフメディケーションを税制が施行されたことで啓発活動に一層努力する必要があることを伝えてもらった。

結果として、今回参加された行政、薬剤師、登録販売者、配置販売者間におけるセルフメディケーションの基本概念共有の第一歩が図られた。

スモールグループディスカッション

スモールグループディスカッションを行うにあたり9つのグループで様々な意見をまとめた提案書ができた。

テーマ1 こうありたい・こう育てたい福井のセルフメディケーション

小さいうちから医療機関に受診するということが当たり前になっているため自分たちで病気を防ぐこととともに、様々な健康情報に惑わされないようにすることを教育していく必要がある。

ディスカッション時の内容として

- ・若い人たちにセルフメディケーション教育。
- ・予防医学の活用と啓発。薬剤師、登録販売者のスキルアップ。
- 一般用医薬品の活用と受診勧奨の判断なトリアージ能力の向上。
 - ・薬局内でのOTCの啓発活動。処方せんでなく、OTCにも薬剤師が積極的になる。
 - ・セルフメディケーションをまず考える文化を醸成する。

テーマ2 県民のための、ちょっと素敵な福井のセルフメディケーション
市民講座などの啓発事業でセルフメディケーション税制や食事の大切さとともに、自分の体をまもりその時に登録販売者薬剤師に相談できるようPRしていく必要がある。

ディスカッション時の内容として

- ・薬物依存の方（リンコデ配合シロップなど）薬局薬店での情報共有。
- ・認知症の方には本人の状況、介護などの情報などを家族にしっかり伝える必要があること。
- ・人の集まるイベントに参加して、私たち一般用医薬品の販売者として県民に知っていただきたいことをPRしていく必要があること。
- ・お薬手帳の活用。一般用医薬品でもきちんと記載する必要があり、情報共有を図る。前立腺肥大症、緑内障などの疾患のチェックもわかる。
- ・お薬手帳の情報共有のために啓発活動が必要。

提言1. 一般用医薬品の専門家同士が医師も含め、県民にセルフメディケーションを推進できる活動、研修を今後も行っていく。

提言2. 一般医薬品の専門家同士が協力して、県民に向けたセルフメディケーションの啓発事業を行う。

4、考察

行政と医薬品販売当事者が一堂に会した事業は福井県内では稀な事業であり、実施により、今後の福井県でのセルフメディケーション普及に向けての第一歩となった。スモールグループディスカッションでは行政、研究者、配置薬の登録販売者、薬剤師からそれぞれの視点で現状と問題点を議論することで、現在の立場や役割を理解できた。しかし、セルフメディケーションとは幅広く自己責任が伴うことでもあり、健康食品やサプリメントでは玉石混交の状況にある。そこで科学的にデータを読み込んで解釈する必要があると思われ、薬のプロフェッショナルとしての登録販売者や薬剤師の役割が重要となる。各自がセルフメディケーションデータマネジメントスキルを磨き、コミュニケーションを合わせて身に着けることで、地域住民がまず薬の専門家である我々に相談に来てもらえるよう努力していかなければならない。これらのことを参加者に意識付けできたことはとても大きな一歩と有意義であった。

5、まとめ

今後は福井県内の登録販売者、薬剤師職種を問わずセルフメディケーションについて県民に広く訴えていく事業を福井県とともに進めていくことを望む。

6、資料、表、図及び写真など

共通認識として

県民のために私たちが目指す「セルフメディケーション」とは

高度医療・過剰な検査を使わず、科学的根拠に基づき軽医療全般を活用する自己責任の上に成り立つ医療であり、OTC 医薬品等の活用、様々な伝統医療の活用、食事や運動などの生活習慣の改善等の幅広い選択肢からなる。

